

「星霜 篠田桃紅 心にきざすもの 墨と線に託して」

関市立篠田桃紅美術空間では、昨年12月9日から「篠田桃紅芸術月間2012 星霜 心にきざすもの 墨と線に託して」展を開催しています。

6回目を迎えた桃紅月間では、今年、数えの100歳となる桃紅の画業の中で、1980年代から現在に至るまでの作品を中心に文字や墨の線に注目した内容となっています。

桃紅は5歳のころより父から書を学び、日本の古典文学に親しみます。そこで培われた日本の美意識は、抽象を描く現在でも作品の根底に脈々と流れ、現代の私たちが失いかけている日本文化の「美」や「粹」といったものを感じさせてくれます。

今展では、98歳の桃紅の筆による『小

倉山百人一首』カルタ作品とともに、今回初披露となる、1940年代、書道教室を開いていた桃紅が20代に制作した『小倉山百人一首』カルタや書の手本を併せて展示しています。

「篠田桃紅芸術月間2012 星霜 心にきざすもの 墨と線に託して」

● 会 期：3月27日(火)まで

● 入館料：高校生以上300円・中学生以下無料

● 休館日：月曜日(休日を除く)、休日の翌日(土・日・休日を除く)

※1月9日(祝・月)は開館

● 開館時間：午前9時～午後4時30分

● 関連イベント：1月15日(日)午前11時～ 米元響子バイオリン・ミニコンサート(入場無料)※1月6日(金)までに申し込みが必要

● 学芸員による解説会：1月14日(土)、2月11日(土・祝)、3月10日(土)いずれも午後1時30分～(約45分間)

● 照会先：篠田桃紅美術空間

(市役所7階) ☎23-7756



ひとひと
女と男

ともに自分らしく生きよう

男女共同参画社会

vol. 88

男女共同参画あれこれ

日常生活の中で、子どもの遊びからおもしろいことを見たり聞いたりします。気をつけているとそれらが男女共同参画に関わっていることがあります。私が気づいたある出来事を紹介します。

それは“一輪車”についてです。近くに住んでいる孫娘が私の家に遊びに来ると、近所の公園へ練習に行きます。ある時、公園で遊んでいた男の子に私が「一輪車に乗れるか？」と聞いたら「あんな女の子がするようなものはやらない」と。男の子が一輪車なんかに乗ったら格好悪いということなのでしょう。

今はどの小学校にも一輪車が置いてあり、休み時間になると皆乗って遊んでいるようですが、全員が女の子だと孫娘から聞いています。

乗ってみたい男の子も大勢いるでしょうに、周囲の目を気にして乗ることができないのです。

小さなころから“男のすること”“女のすること”と性別区分されて周囲の大人がしていること、話していることを子どもなりに解釈し、刷り込んでいっているように思います。

子どもたちが成長し育っていく環境を偏った場にしないよう、正しいことを的確に理解しやすい言葉で伝えていきたいものです。

さんかくサポーター＜J＞



＜照会先＞ さんかくサポーター事務局(まちづくり推進課内) ☎23-6831